

Cult of Body Online: Sports and Physical Culture in Russia, 1891-1919

20世紀初頭のロシアのスポーツ雑誌・新聞 ロシアの「体育(physical culture)」運動 1891-1919

オンライン版:完全買切型 (次年度以降の追加費用は発生しません) brill.com/cobo

価格はお問い合わせください

スポーツは、伝統から近代への移行過程を分析するための貴重な鍵といえます。スポーツ競技は、階級を問わずおこなわれ、女性を公の場に登場させ、自己表現の新しいかたちとなりました。スポーツは健康、競争心、他人との協力などの面からも近代化において欠かせないものでした。また、観光事業を対象とした研究も近年盛んになってきていますが、これもスポーツと密接に関係しています。もっとも重要な点は、現代人の性的な関心がスポーツ雑誌の影響を強く受けている点です。男女の役割がスポーツを通じて変化しただけでなく、スポーツ雑誌に載っている写真やイラストは、新しい理想の男性像、女性像を反映しています。

Advisor: Louise McReynolds

●言語:ロシア語

●原本所蔵:National Library of Russia, St. Petersburg

●本コレクションで取り上げられているトピック

スポーツ一般 / 飛行機・自動車・ヨット / ボディビルディングとレスリング / サッカー / 競馬 / スケート / 旅行:サイクリングと登山



◆ロシアのスポーツ雑誌・新聞

最初のスポーツ専門雑誌は、特に 1870 年代以降、競馬と狩猟に関する記事を載せていました。これが変化する土台となったのは、1890 年代の急激な工業化によって社会的、経済的基盤を手にした中流階級でした。作業が組織化されたことによって、わずかとはいえ自由に使える金と余暇が手に入ったのです。同時に、工業化がきっかけとなって、近代生活のストレスが人体に与える影響にも人々は注意を払うようになり、頭だけでなく体も使う新たな文化活動である「体育」が体に好影響を与えることを理解するようになりました。

中流階級の間人たちはクラブを作ると、情報を広めるための小雑誌をじきに出版し始めました。真っ先に雑誌を出版したのがサイクリング愛好家で、*Tsiklist* (The Cyclist) という雑誌を発行しましたが、それだけでなく、彼らは「体育」と近代生活のつながりの象徴とも言える存在です。サイクリングクラブの会員には女性もいて、クラブのカフェで自由な社交生活を送っていました。サイクリング専門誌が徐々にサイクリング以外のスポーツに重心を移していったということは、サイクリングの愛好家が減ったことをではなく、他のスポーツの愛好家が増えたことを示すものです。

本コレクション所収の *K sportu!* (Let the Games Begin!) や *Silai Izdorov'e* (Strength and Health) (1909—1914) といった刊行物は、大部分がスポーツ全般を扱ったものですが、特定のスポーツのみを扱った雑誌も収めています。

収録明細もごさいます。お問い合わせください。

G.C. 19137

裏面もご覧ください ⇒

(De Gruyter Brill (Brill), NLD Primary Source / 丸善雄松堂)

●掲載製品はリパースチャージ対象製品です。

●原価の改定、為替相場の変動などの理由による価格の変更や掲載タイトルの変更につきましては、予めご了承の程お願い申し上げます。

●お見積もりは、別途ご用命ください。

MARUZEN-YUSHODO

丸善雄松堂株式会社[学術情報ソリューション事業部 企画開発統括部]

e-mail: e-support@maruzen.co.jp

◆飛行機・自動車・ヨット

一見したところ、飛行機・自動車・ヨットはエリート的すぎて、大衆文化研究のための資料のコレクションに含めるにはふさわしくないように見えるかもしれません。しかし、これらの競技は観戦スポーツとして類を見ないほどの人気を博すようになりました。

飛行機・自動車・ヨットを扱った雑誌にはロシアの技術の進歩に関する情報も含まれており、特に *Avtomobil'noe delo* (Automobile Affairs) 誌といったより専門的な雑誌もあります。

しかしレース競技の隆盛がスポーツとしての側面を強調することになり、自動車は他の種類のスポーツにも組み込まれるようになりました。ボートにもエンジンが取り付けられるようになると、「ヨット」の意味は薄れてきてよりスポーツ的になりました。さらに、こういったレース競技は国際大会として開かれることが多く、愛国的な誇りが競技者たちから観客全員にまで蔓延する原因となりました。

◆ボディビルディングとレスリング

ボディビルディングは最も人気のある個人スポーツの一つであり、「体育」運動の典型でもあります。ボディビルディングは個人の健康を増進するもので、「体育」運動の根幹をなすものだからです。男たちが一緒にトレーニングをするボディビルディングのジムは、近代ロシアにおける、男性同士の社交場の重要な一つになりました。

このことは、サーカスの見世物にすぎなかったレスリングの地位を高める一因になり、レスラーは観客（女性の観客もいました）の前で試合をするようになりました。Ivan Lebedev が発行した *Gerkules* (1912-1917) 誌は最盛期には最も広く読まれた雑誌ですが、レスリングに材を求めた小説やレスリングの歴史を載せ、一般の人々の想像力に訴えてレスリングを広く根付かせました。*Silai I zdorov'e* 誌は男性のみに限られていた「体育」運動の幅を広げ、*Illustrirovannyi zhurnal atletika i sport* 誌はスポーツファンには馴染み深い現代のスポーツ雑誌を予感させるものです。

◆サッカー

イギリス人の工場長たちによってロシアに持ち込まれたサッカーは、厳しい規則、仲間同士の協力に多くを負っている点などで、現代の職場の縮図と言えます。サッカーの試合は身体能力を向上させる役にもたち、サッカー競技が広まったのは運動熱のおかげであって、特定の階層の人に支持されたからというわけではありませんでした。

サッカーはすぐに工場の外にも広がって近所の人々も参加しはじめ、即席のサッカー場ができてくると、ロシア全国の少年は急ごしらえのチームを作って大勢の観客の前で試合をするようになりました。サッカーは今日世界一の人気スポーツであり、サッカー雑誌はロシアにおける運動競技の変遷をたどる絶好の資料です。

◆競馬

「王侯の娯楽」である競馬が観客をひきつける最たる理由は、競馬が合法の賭け事である点です。他のどんなスポーツよりも競馬に関する雑誌・新聞は抜群に多く、その理由は、レース日の夕方にその日の「人気馬」を載せた競馬新聞が数多く発行されたためです。

本コレクションに採録されている雑誌・新聞は当時の競馬場の雰囲気や今に伝えるもので、席の値段によって社会階級ごとに分かれていたにもかかわらず、競馬熱によって観客全員が一体となっている様子がまざまざとうかがえます。ロシア人の博打好きはよく知られていますが、競馬雑誌・新聞は、賭博という悪習を排撃する論文には欠けている、ロシア社会の特質を補うものです。

◆スケート・ローラースケート

スケート場やローラースケート場が人気を呼び、人々は競争したり一緒に遊んだりしました。女性が転ばないようにという名目で、礼にかなった行いとして、男性は公然と女性を抱いて支えることができました。

スケートは運動熱をますます盛んにするだけでなく、社交のためのスポーツとしても最も人気がありました。ローラースケート場は恋愛スキャンダルの舞台にもなりましたが、男性のスケート教師が教師役だけでなく、金を払われればエスコート役も引き受けたからです。Obzrenie kinematografov, sketing-ringov, uveselenii I sporta (Review of Cinema, Skating Rinks, Entertainment, and Sports) 誌のような雑誌は娯楽の中心としてのスケートを取り上げ、K sportu! 誌や Vestnik sporta (The Sporting Herald) 誌といったものは国内外の競技大会に焦点を当てています。

◆観光:サイクリングと登山

20世紀初頭、スポーツは観光事業のブームにはずみをつける役目も果たしました。自転車には、比較的安価な個人の交通手段であるという大きな社会的な利点があるだけでなく、サイクリングはすぐに娯楽や競技的なスポーツに発展していきました。娯楽と移動手段を兼ね備えているためにサイクリングが観光手段になったことは、地方の1900近いサイクリングクラブが「ツーリスト」に名を変えて、その土地の観光事業を後援したことから見ても明らかです。

登山は明らかにサイクリングほど広まりはしませんでした。登山家たちもクラブを作り観光事業を企画しました。Tsiklist 誌は1895年から1904年まで刊行され、サイクリングと他のスポーツを結びつけ、Russkii turist (The Russian Tourist) 誌は1899年から1913年まで刊行され、関連する運動を観光事業に組み込みました。この手の雑誌は観光を研究する上で重要であり、観光がナショナリズムに発展していくさまを知るのにも必要不可欠です。